文書館（もんじょかん）ニュース

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives

No.49

contents

■文書館動物記　書庫に棲む動物たち……2/3
■公文書の引継ぎ･保存･公開に関するQ&A……4
■平成26年度の新収諸家文書を紹介します……5
■学校教育との連携……6
■特別展「花燃ゆ」への協力……6
■古文書講座をのぞいてみよう……7
■美術とアーカイブズ……7
■万歳　正月のことほぎ……8

第10回中国四国地区アーカイブズウィーク

文書館 もんじょかん 動物記

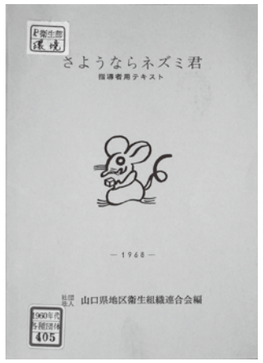
書庫に棲む動物たち

2015.6.2TUE－6.6SAT・7SUN

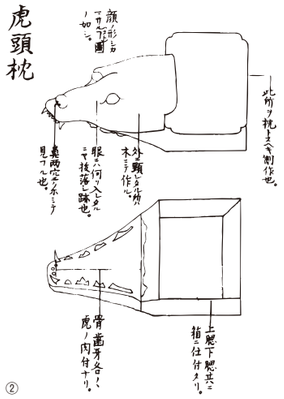
動物たちは、歴史の中でどのように人々と関わり、また人々は動物たちに関して、どのような記録を残しているのでしょうか。

山口県文書館の五〇万点を超える資料の中には、そのような「人間と動物」の関係を垣間見ることのできる、興味深いものが多数含まれています。

今年のアーカイブズウィークでは、それらの一端をご紹介します。



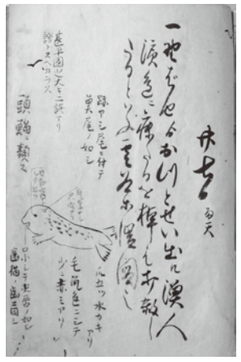
①



②

③

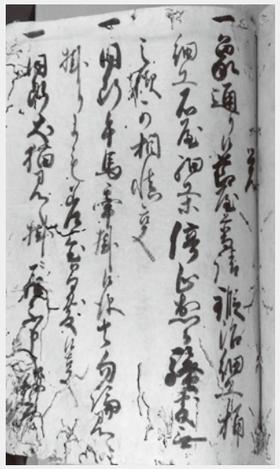
④



⑤

⑥

①ネズミ駆除の指導者用手引き
（行政資料1960年代各種団体405）
②「虎頭枕」（「防長古器考 有図25」）
堅田内記広範家に伝来のもの
③「浦日記」（毛利家文庫71藩臣日記2）
天保12（1841）年6月16日条
皆既月食の日に岩国に現れたという怪獣
④「諸所風説書」（毛利家文庫29風説5）
京都守護職として入京した松平容保が怪獣の姿で風刺的に描かれている
⑤「密局日乗」（毛利家文庫19日記19）
寛政3（1791）年3月27日条
前大津宰判三隅村野波瀬で目撃された「おつとせい」の記事
⑥愛犬に登録と狂犬病予防注射を促す山口県のポスター（ポスター1950-1）

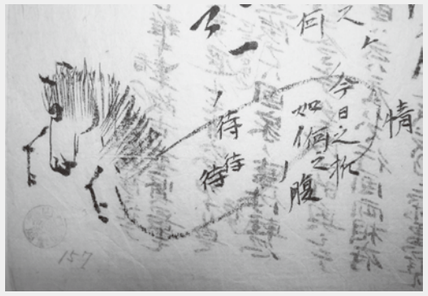


象がやってきた

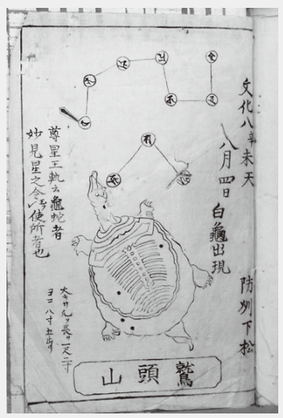
享保13（1728）年6月、将軍徳川吉宗が発注した象が長崎に到着し、翌年3月から陸路で江戸に向かいました。

象は3月25日に下関に上陸して山陽道を進み、4月2日に徳山の象小屋に泊まりました（「御書出控」徳山毛利家文庫　御書出控7）。

じゃじゃ馬！ 吉田松陰関係資料



吉田松陰関係資料157「意見書文案」の裏面に、躍動的な馬のイラストがあります。誰が書いたのかは判然としませんが、放れ駒のように幕末を駆け抜けた吉田松陰を隠喩しているかのようです。



大内氏の鷹狩

大永元（1521）年9月に、大内義興が嫡子義隆を伴って、鷹狩りと松茸狩りに出かけた際の記録です（「大内義興父子遊山書留」藤岡家文書1）。鷹狩りは、中世の武将たちの間でたいへん人気がありました。

中世領主の鷹狩りの記録として、たいへん珍しい史料です。

大内氏と亀

大内氏は妙見（北辰）を厚く信仰したことから、北辰の象徴としての「玄武」（亀蛇）を、とりわけ大切にしました。左の「降松妙見社縁起写」（多賀社文庫434）では、「亀蛇者妙見星之令使玉フ所者也」と記されています。

萩藩と鶴

鶴は特別な鳥として贈答や観賞に用いられました。萩城内においても飼養されていました。山口県には、江戸時代、ナベヅルだけでなく、丹頂・真鶴なども飛来していた記録があります。右は、昭和戦前期の八代（周南市）の鶴の写真（広報課大型写真307）です。

「密局日乗」

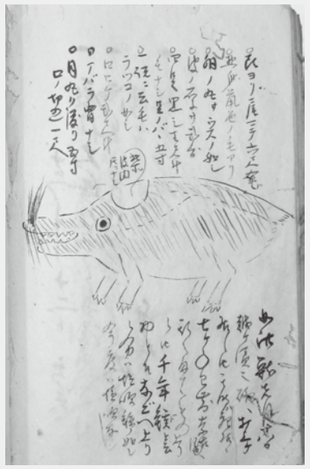
「密局日乗」は、藩政後期に作成された萩藩密用方（藩の歴史や先例調査を担当した役所）の日記です（全129冊）。

この中には、藩内で目撃されたり、噂になった珍しい動物、怪奇な動物に関する記事が数多くあります。

「産物帳」の成立

享保20（1735）年から数年をかけて、幕府の医師丹羽正伯は全国の動植物や鉱石についての実態調査を行うため、各藩に命じて「産物帳」ならびに彩色した「絵図註書」を作成させました。

提出された「産物帳」そのものは現存していませんが、当館には防長両国の産物帳作成に関する史料が数多く残されています。



公文書の引継ぎ・保存・公開に関するQ&A

文書館では、県庁で作成・収受し、保存期限が満了した公文書(当館では「行政文書」と呼んでいます)の中から、後世に残すべき価値があると考えられる公文書を引継ぎ、保存しています。
今回は、公文書の引継ぎ・保存・公開に関する疑問について、Q&A形式でお答えします!

Q 公文書の引継ぎは、いつから始まったのですか?

A 戦前の県立山口図書館内にあった郷土志料室の時代から始まりました。昭和三十四年(一九五九)の文書館開館以降は、毎年定期的に実施しています。平成二十七年(二〇一五)三月現在までに引き継いだ公文書の総数は、約七万七千点にのぼります。

Q 公文書の引継ぎはどのように行われていますか?

A 現在は、山口県公文書取扱規程等に沿って、県庁各課と文書館の間で行われています。当規程には、県庁各課が文書を廃棄する際、あらかじめ、その文書を文書館に引き継ぐことが適当かどうかについて文書館長に照会することになっています。また、文書館長がその文書を文書館に引き継ぐことが適当である旨を回答したときは、特別の理由がある場合を除き、文書館に引き継がなければならないと定められています。

当規程に沿って、例年、執務環境整理期間にあわせて、公文書の引継ぎが行われています。

Q 文書館に保存されている公文書にはどのようなものがありますか?

A 総務や教育、農業、商業、土木など、幅広い内容の公文書が保存されています。古いものの中には、廃藩置県以前の山口藩時代の文書や、大正末年に廃止された郡役所の公文書も含まれています。

また、例年廃棄される公文書の中から選別し引き継いだ公文書とは別に、県政上重要な永年保存文書を協議の上で引継ぎ、保存する場合もあります。例えば、昭和四十一～四十五年度まで続いた『山口県政史』編さん事業の過程で、県庁内に保存されていた永年保存文書を一括して引き継いでいます(県庁戦前B文書)。また県庁文書課(現在の学事文書課)が保存していた明治期の県庁布達類(明治期山口県布達類)も協議の上で引継ぎ、保存・公開しています。

なお、昭和二十二年(一九四七)三月以前に完結した公文書は、近代史研究、地方行政史研究を進める上で貴重な資料群であるとして、国の重要文化財に指定されています。

1970年代公文書の保存状況

Q 引き継がれた公文書は全て公開されているのですか?

A 現在は、概ね一九七〇年代までに完結した公文書を公開しています。また、簿冊に個人情報が含まれる場合は、一定の期間(百年以上、八十年、五十年など)、公開を制限しています。なお、一九五〇年代以降の公文書に関しては別館書庫で保存しています。

Q 文書館で公文書が保存・公開されるメリットは何ですか?

A 文書館で県の公文書を保存することは、県行政の足跡が、確実かつ正確に、未来へ継承されることを意味します。また近年、年金記録のずさんな管理や、東日本大震災時の議事録未作成問題などを受け、公文書管理への関心が高まっています。文書館において県政上重要な公文書を保存・公開していくことは、県政の透明性を高めることにつながっています。

平成二十六年度の新収諸家文書を紹介します!

今年度、一六家、二、〇三四点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中から三つの文書群を紹介します。

■内田伸採拓史料

内田伸(のぶる)氏は、山口市鋳銭司生まれ。山口市職員として山口市歴史民俗資料館長などを歴任、多年にわたり社寺建築をはじめ石造美術や雪舟、大村益次郎の研究にいそしむほか、民話伝説の蒐集にも努めるなど、多方面の活躍をされました。主な著作には、『山口県の石造美術』、『大村益次郎文書』、『防長の微笑佛』、『山口県の金石文』等々があります。

本史料は、『山口県の金石文』に掲載された梵鐘・鰐口・石造物など年紀の刻まれた金石文の拓本を集積したものです。県内はもとより、本県に関わるものは県外までも所在地に足を運んで採拓してあります。その拓本技術には定評があり、肉眼の限界を補って余りあるものです。このように本史料は山口県の中世史をひもとくには欠かせないものと言えるでしょう。

■宮内家文書

宮内家は、中世に周防国吉敷郡の鰐鳴八幡宮(現、山口市小鯖)の神職を務めていた家です。十七世紀前半には、周防国熊毛郡八代村(現、周南市)に所領を与えられていますが、のちに帰農して、周防国佐波郡切畑(現、防府市)に居住しました。文書は、戦国期に大内氏や毛利氏から与えられた判物・奉書が中心です。この内、大内氏の一門・重臣の問田興之が、宮内氏が大内氏から六郎左衛門尉に任じられ太刀を頂戴したことを賀した文書(№1(4の2))は、大永元年(一五二一)に大内義興・義隆父子が鷹狩と松茸狩りを行った際に宮内氏が世話をしたことに関わるものです(当館蔵「藤岡家文書」№1)。このことから、宮内家文書と「藤岡家文書」№1とは、本来は同一の文書群であったと考えられます。

清川家文書 №139　アルバム(利根川改修工事関係)

■清川家文書

清川家は山口市小鯖在住で、明治三十年代～大正期に小鯖村の区長や村会議員を務めた家です。清川忠雄は、明治～昭和戦前期に内務省の技師として主に県外で活動し、明治～大正期に利根川改修工事に携わっており、富士川下流事務所に勤務していました。文書の内容は、①小鯖村鳴滝組住人としての活動に関わるものと、②清川家の家としての活動に関わるものとに大別できます。なかでも、忠雄が携わった利根川改修工事や富士川下流事務所事業など東日本での工事に関する写真が数多く含まれているのが特徴です。県内関係では、昭和八年(一九三三)の山口～小郡間国道のアスファルト工事に関する写真もあります。

■平成26年度の新収諸家文書

№.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴(関連地域、個人・家の歴史、就任役職等)
1	内田伸採拓史料	679	中世～近世	金石文拓本
2	影山家文書	37	近世～近代	コレクション／萩藩士佐伯家(無給通)
3	河崎家文書	3	近代	村長
4	河野英男収集資料(追加)	53	近世～現代	コレクション／県職員
5	清川家文書	207	近世～現代	内務省技師
6	熊野家文書	60	中世～近代	萩藩右田毛利家臣／戸長
7	雑賀家文書	133	中世～近代	萩藩士(大組)
8	佐々木均文書	199	近代～現代	コレクション／県職員
9	宍戸家文書	80	近世～近代	萩藩士(寄組)／書籍
10	田中栄一収集文書	145	近世～近代	コレクション／下張文書
11	林家文書	19	中世～近代	大内氏／萩藩士(大組)／萩藩福原家臣
12	原田萬吉家文書	269	近世～近代	市年寄／庄屋／コレクション
13	古畑家文書(追加)	23	近世～近代	コレクション／鷲頭寺／塩田
14	溝部家文書(追加)	5	近代	陸軍軍人
15	宮内家文書	12	中世～近世	大内氏／神官
16	山本家文書	110	近世～近代	庄屋／副戸長 ／村長

学校教育との連携

学校教育支援活動に取り組んでいます！

当館では、学校教育への支援活動を積極的に行っています。その活動の一部を紹介します。

毎年八月、教員を対象に実施しているのが「授業で使える文書館活用講座」です。これは文書館への理解を深め、授業における文書館資料の活用方法を学んでもらうことを目ざした講座です。所蔵資料の概要説明や書庫見学のほか、資料の読解演習、フィールドワーク、授業づくりのための資料収集、プレゼンテーションなど実践的な内容です。参加者からは、「授業での活用の仕方についての具体的なアドバイスやヒントが大変参考になった」、「文書館の資料をより身近に感じることができた」、「生徒へも伝えたい」などの感想が寄せられています。今年度の受講者募集は五月中旬ごろの予定です。

平成二十二年度から作成を始めた『山口県文書館所蔵アーカイブズガイドー学校教育編ー』は、館蔵資料から、授業等で使いやすい資料をピックアップし解説を付けたガイドブックです。現在一四四のトピックがあります。中学校の歴史の教科書とリンクさせ当館ウェブサイトで公開しています。日々の授業でぜひご活用下さい。

また当館では、学校教育現場のニーズに合った支援を行うために、さまざまな機会をとらえて教員との情報交換の場を持ちたいと考えています。平成二十六年度には、山口県高等学校教育研究会社会部会山口地区協議会で、高等学校の地歴・公民科の教員にアーカイブズガイドの作成を中心とする当館の取り組みを紹介するとともに、情報交換の機会を得ることができました。

このほか、授業の一環としての文書館訪問や教材研究に関するレファンレンスも随時受け付けています。お気軽にご相談下さい。

授業で使える文書館活用講座（26.8）

山口県高等学校教育研究会社会部山口地区協議会（26.12）

NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」への協力

今年一月から、吉田松陰の妹・文を主人公としたNHK大河ドラマ「花燃ゆ」が放送されています。これにあわせ、NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」が、山口県立萩美術館・浦上記念館（萩市）、東京都江戸東京博物館（東京墨田区）、アーツ前橋（群馬県前橋市）など全国3会場で開催されます。吉田松陰や文ゆかりの品をはじめ、楫取素彦、高杉晋作、久坂玄瑞など、文とともに幕末を生きた長州藩士たちの関係資料を紹介し、彼らの人物像と、彼らが生きた幕末維新期という激動の時代を描き出す展覧会です。

当館はこの特別展に全面的に協力し、山口県指定有形文化財「吉田松陰関係資料」をはじめ多くの館蔵資料を出品します。「絹本着色吉田松陰像（自賛）」や「吉田松陰絶筆」など貴重な歴史資料を目にできる好機です。ぜひ会場にお越し下さい。

会期：山口4月18日～5月24日／東京6月4日～7月20日／群馬8月1日～9月6日

古文書講座をのぞいてみよう

当館では、入門・専修・実践という三つのコースの古文書講座を実施しています。

ここでは、平成二十六年度に各講座で使われたテキストを紹介しながら、会場の雰囲気をのぞいてみます。

◇入門講座

「入門講座」は、古文書解読の基礎を学ぶ講座です。受講生は、見慣れない「くずし字」に戸惑いながらも、一字一字丁寧な解読に努めました。

前期のテキストは「未ノ年諸国御巡見之上使事」です。幕府は、全国支配の一環として諸国に役人（巡見使）を派遣し、各地の様子を視察させました。テキストで取り上げた寛文七年（一六六七）の事例では、周防・長門に三名の幕府役人が来訪しています。彼らがたどったルートに出てくるなじみのある地名から、文字のくずし方を学びました。

後期は、萩藩士の国司広孝（一六九五～一七二六）が伝え聞いた事柄を記した「聞書　国司広孝」を読みました。防長のことにとどまらず、朝廷のこと、豊臣秀頼のこと、福岡藩で起こった黒田騒動のことなど、豊富な内容が詰まった記録です。

◇専修講座

「専修講座」は、古文書のより深い知識を学ぶ講座です。前期のテキストは、「就御内用宮木八郎右衛門一同ニ被差越候一件」。明和八年（一七七一）二月、萩藩士二名が萩藩主毛利重就の「御内用」を携え徳山藩を訪問、徳山藩主毛利兼馴と家老に面会を求めました。ただごとではない萩藩の使者を迎えた徳山藩の苦悩を知ることができました。

後期の前半は「貞享地震の記録を読む」として、貞享二年（一六八五）に防長で発生した地震を取り上げました。この地震では、堅牢な萩城の塀や石垣の崩落をはじめ、領内各地で被害が出たことを知りました。後半のテキスト「孝婦いしの生涯」では、義理の両親に献身的に仕えた「いし」を、萩藩が人々の鏡として賞した記録を読みました。

◇実践講座

「実践講座」は、受講生が主体となって解読を進める「演習形式」のスタイルを採る講座です。

受講生は三班に分かれ、「萩藩の孝人・奇特人」、「四国旅日記」、「幕末の記録」をテーマとした資料を解読しました。時には文字や解釈をめぐって、熱い議論も展開されました。

このように文書館では、バラエティー豊かな古文書講座を開講しています。皆様の御参加をお待ちしています。

第9回中国四国地区アーカイブズウィーク
美術とアーカイブズ

古文書に見る防長の美術工芸品

平成二十六年度、「美術とアーカイブズ―古文書に見る防長の美術工芸品―」をテーマに、第9回中国四国地区アーカイブズウィークを開催しました（5／31～6／8）。

萩焼や雪舟・雲谷派の絵画など、山口県を代表する美術工芸品のルーツや歴史を物語る記録、萩藩が作成した美術工芸品の調査報告書「防長古器考」、長府藩御用絵師の描いた「四季耕作図」屏風などを展示したほか、防長の美術工芸品と当館資料に関する歴史探求講座を開催し、多数の方々にご来場いただきました。

「文書館（アーカイブズ）」と「美術（アート）」、一見距離を感じる二つの言葉ですが、当館には両者をつなぐ歴史的な資料もたくさん保存されている、そんな驚きをみなさんに感じていただけたのではないかと考えています。

編集／山口県文書館　発行／平成27年(2015)3月27日　印刷／大村印刷株式会社

正月には一年の祈りが凝縮

正月の行事や飾りには、その年の豊作や家々の安寧などを願う、さまざま祈りが凝縮されています。

今回は、正月に巡り来て家々を祝福する「万歳（まんざい）」という芸能、ないしそれをおこなった人々を紹介します。

「万歳」は、滑稽さを強調した芸能として近代化した、今の「漫才」の原型にあたります。

鶏頭烏帽子の万歳

おそらく大内氏の時代から、山口を中心に門付け（かどつけ）に回った、特別な由緒をもつ万歳の人々がありました。写真①②は、彼らの被った鶏頭の烏帽子と、彼らの万歳の様子です。

彼らは江戸時代には、萩城及び城下にも門付けに出るようになり、武士の家にも上がりこんで言祝ぎ（ことほぎ＝寿ぎ）を行いました。鶏頭をかたどった烏帽子の下賜や修理も、藩の重臣によって行われていたようです。

彼らは大内氏の先祖と一緒に渡来したという由緒をもつ陰陽師の末裔だと考えられており、山口市大内御堀にある乗福寺の保護を受けていました。

万歳と門松

写真③は、当館の吉川家文書にのこる正月の門付け万歳の様子を描いたものです。彼らは家々の前でその家を寿ぐ祝言を唱え、歌舞しました。

この絵からは、当時の門松のさまも見て取れます。門松は、それを許された家にのみ立てられました。

門松は、本来このように一本で、家のカド（前庭）に立てられ、松などの枝の「芯」を残したものだったようです。

万歳 正月のことほぎ

①鶏頭の烏帽子（一般郷土資料 1704）
②鶏頭万歳の様子
（個人蔵。『森寛齋遺作図録』恩賜京都博物館、1944 より部分転載）
③「万歳画」（吉川家文書 307）

山口県文書館

〒753-0083　山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116　FAX083-924-2117　http://ymonjo.ysn21.jp/

利用時間

【開館時間】火曜日～日曜日　9:00～17:00
【閉 館 日】月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。
　閲覧室へは2階へお上がり下さい。
※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧下さい。

〔表紙写真〕「浦日記」（毛利家文庫71藩臣日記2（62-11））
「密局日乗」（毛利家文庫19日記19（129-30））いずれも2-3頁参照